



黃得時全集

3

創作卷三：日文隨筆（下）

江寶釵 主編

黃得時全集

3

創作卷三：日文隨筆（下）

江寶釵 主編



國家圖書館出版品預行編目 (CIP) 資料

黃得時全集 / 黃得時作 ; 江寶釵編. -
初版. -- 臺南市 : 臺灣文學館, 2012. 12
冊 ; 公分
ISBN 978-986-03-5148-4 (全套 : 精裝)
863. 4 101025319

黃得時全集 3—創作卷三

作 者 / 黃得時

發 行 人 / 李瑞騰

指導單位 / 行政院文化部

出版單位 / 國立臺灣文學館

地 址 / 70041 台南市中西區中正路 1 號

電 話 / 06-221-7201

傳 真 / 06-221-8952

電子信箱 / pba@nmtl.gov.tw

網 址 / www.nmtl.gov.tw

主 編 / 江寶釵

編輯小組 / 呂興昌 施懿琳 陳昌明 陳萬益 陳 韻 黃英哲 (筆畫排序)

日文團隊 / 丁碧玉 吳亦昕 金培懿 徐國章 郭文良 黃得峰 張麗嫻 楊智景

盧秀滿 (筆畫排序)

執行編輯 / 李知灝 許惠玟 許劍橋 謝瑞隆 (筆畫排序)

校 對 / 李知灝 許惠玟 薛建蓉 梁鈞銓 (筆畫排序)

美術設計 / 黃士豪

排 版 / 梁鈞銓 卓佳賢

印 刷 / 泰銘照相製版社有限公司

著作財產權人 / 國立臺灣文學館

本書保留所有權利。欲利用本書全部或部分內容者，須徵求著作財產權人同意或書面授權。請洽承辦單位研究典藏組 (電話：06-221-7201)

初版一刷 / 2012 年 12 月

經銷展售 / 國家書店松江門市 (02-2518-0207)

國立臺灣文學館—雪芙瑞文學咖啡坊 (06-221-4632)

五南文化廣場 (04-2226-0330)

南天書局 (02-2362-0190)

唐山出版社 (02-2363-3072)

府城舊冊店 (06-276-3093)

台灣的店 (02-2362-5799)

啟發文化 (02-2958-6713)

三民書局 (02-2361-7511)

草祭二手書店 (06-221-6872)

G P N / 1010103317

I S B N / 978-986-03-5148-4

定 價 / 全套不分售新台幣 4500 元整



Printed in Taiwan

©著作權所有 • 翻印必究

日文隨筆（下）

新聞記事の常用語

7

新聞報導の常用語

張麗嫻譯 黃得峰修訂

11

臺灣語の「仔」に就て

15

關於臺灣語中的「仔」

黃得峰譯

28

娛樂としての布袋戲

40

作為娛樂的布袋戲

張麗嫻譯

43

新しい布袋戲

45

新的布袋戲

張麗嫻譯

49

臺灣に於ける文學書目

52

關於臺灣的文學書目

張麗嫻譯

157

鷄肋

259

雞肋

徐國章譯

283

字と個性

284

字與個性

黃得峰譯

288

古今集の真名序と仮名序について

《古今集》中の真名序與假名序之相關論述

郭文良譯

切抜のゆくへ——水滸傳樂屋ばなし

剪報的行蹤——水滸傳後臺記事

張麗嫻譯

日本四大文豪誕生百年紀念

日本建國記念日——結束十餘年來日本朝野之論爭

川端康成其人其事

日本文士自殺列傳

雪國、千羽鶴、古都——從諾貝爾獎獲獎作品看川端康成之文學

川端康成簡明年譜

唐代文化と空海

唐代文化與空海

黃得時自譯

白樺派和人道主義——日元老作家武者小路實篤逝世

石川達三其人其事——出席作家會議之日本代表

芥川賞與直木賞——四十年來日本作家的成名之路

日作家北條誠二三事

456 443 433 428 416 400 390 365 346 339 335 326 323 319 306 290

日本審判查泰萊案——發行人與翻譯者均判罪

日本作家的收入

榮獲文化勳章——日本古今文壇散記

中國人の日本人觀

中國人的日本人觀

外籍學人在日本

中日學位之比較

日本國會九十週年——從新舊憲法看政治之動向

日本的文化財保護法與我國文化資產保存法比較

日本之文化勳章

早稻田大學建校百年記

中日比較文學から見る——日本文學の中文翻譯

由中日比較文學看——日本文學之中文翻譯

文學和宗教的溝通——簡介遠藤周作其人其事

敬惜字紙と聖蹟亭

敬惜字紙及聖蹟亭

黃得時自譯

593 587 581 570 553 549 546 533 522 517 512 495 474 469 466 460

黃得時全集

3

創作卷三：日文隨筆（下）

江寶釵 主編



日文隨筆（下）

新聞記事の常用語

7

新聞報導の常用語

張麗嫻譯 黃得峰修訂

11

臺灣語の「仔」に就て

15

關於臺灣語中的「仔」

黃得峰譯

28

娛樂としての布袋戲

40

作為娛樂的布袋戲

張麗嫻譯

43

新しい布袋戲

45

新的布袋戲

張麗嫻譯

49

臺灣に於ける文學書目

52

關於臺灣的文學書目

張麗嫻譯

157

鷄肋

259

雞肋

徐國章譯

283

字と個性

284

字與個性

黃得峰譯

288

古今集の真名序と仮名序について

《古今集》中の真名序與假名序之相關論述

郭文良譯

切抜のゆくへ——水滸傳樂屋ばなし

剪報的行蹤——水滸傳後臺記事

張麗嫻譯

日本四大文豪誕生百年紀念

日本建國記念日——結束十餘年來日本朝野之論爭

川端康成其人其事

日本文士自殺列傳

雪國、千羽鶴、古都——從諾貝爾獎獲獎作品看川端康成之文學

川端康成簡明年譜

唐代文化と空海

唐代文化與空海

黃得時自譯

白樺派和人道主義——日元老作家武者小路實篤逝世

石川達三其人其事——出席作家會議之日本代表

芥川賞與直木賞——四十年來日本作家的成名之路

日作家北條誠二三事

456 443 433 428 416 400 390 365 346 339 335 326 323 319 306 290

日本審判查泰萊案——發行人與翻譯者均判罪

日本作家的收入

榮獲文化勳章——日本古今文壇散記

中國人の日本人觀

中國人的日本人觀

外籍學人在日本

中日學位之比較

日本國會九十週年——從新舊憲法看政治之動向

日本的文化財保護法與我國文化資產保存法比較

日本之文化勳章

早稻田大學建校百年記

中日比較文學から見る——日本文學の中文翻譯

由中日比較文學看——日本文學之中文翻譯

文學和宗教的溝通——簡介遠藤周作其人其事

敬惜字紙と聖蹟亭

敬惜字紙及聖蹟亭

黃得時自譯

593 587 581 570 553 549 546 533 522 517 512 495 474 469 466 460

新聞記事の常用語

それじゃ、無学な出前持が間違えるのも無理はないと、多年の疑問が解決された思つて、いつとはたしに、「セイツワン」の事件を忘れるともなく忘れていた。

ところが、その後、私は「西村満先生」と書かれた手紙を再三ならず手にした。天にも地にも、私は「西川満」であつて、断じて「西村満」ではない。余程、返そうかと思つたが、面倒だし、所番地肩書きもは間違いがないから開封してみると、やっぱり私の姓名のところだけ全部「西村満」になつていたのである。

しかもその差出人の一人は私と面識があり、私と会つたときは、ハッキリと「ニシカワさん」と発音していた男である。令一人は面識こそないが、田舎の国民学校で児童に国語を教えている訓導である。「西村満」ならざる「西川満」の私は、ここに於いて頗る憂鬱にならざるを得ない。

国語の喋れぬ出前持ちなら格別、これらの人々は、国語の話せる人である。しかるにこれらの人々は、私を「ニシカワ」とそのまま国語では覚えず、一応「セイツワン」と臺灣語に翻訳して頭へしまいこんでいるに間違いないのである。それだから、私へ手紙を書くときは、もう一度日本語に翻訳するのである。このとき、これらの人々は「ツワ

ン」が「川」だったか、「村」だったかを忘れて、つい「村」の方を取ってしまうに間違いない。だからこれから推すと松山さんも、佐藤さんでも一応、全部臺灣語に翻訳されてこれらの人々に覚えこまれているのであって、他に類似音がない場合はうまくすまされているが、「西村」とか「西川」の場合、つい日頃の馬脚を現すのである。

昨日、私はまた「西村満先生」と書かれた封書を受け取って、嘆息しながら、裏をかえすと、なんと内地式の姓名である。とつさに私はあわてた。おや、内地人まで間違えられるようになったのかと。だが、封を切ってみると、それは改姓名をした本島人の仁であつた。

新聞は、時々刻々発生する社会凡百の出来事を迅速に且つ正確に報道するのが唯一の目的である以上、その出来事を表現する所謂「記事や見出し」も常に新鮮な感じを読者に与えなければならぬ。しかし、実際に於いては、同じような出来事が、度重ねて起きる場合が非常に多いため、その度、新鮮な言葉を使ったり変わった書き方を考えたりすることは、不可能であるからどうしても同じような言葉を繰返して使うようになる。勿論、記事を書く人も、編輯する人も、できる限り、同じような言葉を繰返さないように心掛けてはいるが、何分にも語彙に限りがあるのでなんとも致し方がない。以下自分

の体験の中から実例を拾い上げて見よう。

○防空訓練 防衛団服に身を固め。命令一下秩序整然と。一糸乱れない統制の下に。鉄壁陣（又は鉄桶陣）を布き。水も洩らさぬ緊張裡に。蟻の這い入れる間もなし。敵機脆く遁走。全員些か疲労の色もなく。空襲なんのその。敵機来たらば来れた。十字砲火を浴びて逃走。

○英靈の凱旋 新東亜建設の礎石。遺烈千古に芳し。赫々たる武勲を立て。世界戦史を飾る一頁。世紀の凱旋。興亜の人柱。東洋平和の枕木。

○会合 劈頭某氏が開会の辞を宣し。会員忌憚なき意見を開陳、原案通り一瀉千里に可決決定。和氣藹々裡に散会。盛会裡に閉幕。

○講演会 万雷の如き拍手に迎えられて登壇。血を吐く熱弁を揮い。文字通り立錫の余地なし。聴衆堂外に溢れ。説き来り説き去り。多大な感銘を新与えて降壇。近來にない盛況振り。一大獅子吼を試みる。

○旗行列、提灯行列 歡喜と感激の坩堝。天に轟けにこの感激。歡喜感激の爆發。蜿蜒長蛇の列。繰り出す火龍数里。旗の波、火の海。人出無慮数万。

○青年団査閲 若人氣宇軒昂。歩武堂々の大行進。真摯敢闘の精神に燃え。意氣天を呑む。燦と降り注ぐ陽光を浴びて。豪雨ものかはと元氣愈々旺盛。

○結婚 某氏夫婦の媒妁により。婚約相整い。新郎は某学校出身の秀才。新婦は某女学校出身の才媛。

○家事 某氏の家より発火。折柄の強風に煽られ。見る見る間に数軒を舐め尽し。紅蓮の焰は天に沖し。附近は阿鼻叫喚の巷を現出。損失何万円の見込み。原因は目下調査中。

そのほか尖兵とか、挺身とか、拍車とか、大童とか、本腰とか、大車輪とか、推進とか、一路とか、完璧とか、打って一丸とか、トップを切るとか、鎬を削るとか、開幕とか、拡大強化とか、邁進とか、鍊成とか、言うような言葉も盛んに使われる。これらの言葉や表現法は、最初使った時は、それこそ非常に新鮮な感じを与えるが、一回二回と度重るにつれて、その新鮮さがなくなり、しまいには陳腐な言葉となって、何等感激感動も与えないようになってしまう。そこに新聞記者としての、また編集者としての悩みがある。（終わり）

新聞報導的常用語

張麗嫻譯 黃得峰修訂

無知的餐廳外送弄錯也是無可厚非的，這樣一來就解決了我多年來的疑問。所以我也就忘記「SEITSUWAN」事件。

但是在那之後，我還是不斷地收到收件人寫「西村滿老師」的信件。真是天地良心，我叫「西川滿」，絕對不是「西村滿」。本來想要把信退回去，可是一方面因為麻煩，再者我的住址跟頭銜也沒有錯誤，所以就拆開來看。一看之下，的確是寫給我的信沒錯，但是就只有我的姓名被寫成了「西村滿」。

而且寄件者還是見過我的人，和我見面的時候的確確是稱呼我「西川先生」。另一人我雖沒有見過，不過卻是在鄉下的國小擔任國文老師的人。對於不叫「西村滿」而是叫「西川滿」的我來說，這件事情確實讓我頗為憂鬱。

不會說國語的餐廳外送也就罷了，可是這些人都是會說國語的人啊。這些人想必不記得國語的西川的發音，而是將其翻譯成臺語的「SEITSUWAN」。在寫信給我的時候，再將我的名字翻譯成日語。這時候他們忘記了我的「TSUWAN」到底是「川」還是「村」，最後就用了「村」這個字。所以我推測，不論是松山或是佐藤，他們都將其翻譯成臺語，如果沒有其他的類似音的話還可以矇混過去。但是如果是「西村」或是「西川」的時候，